

2015年1月21日

各位

積水ハウス株式会社

**政府が2020年の標準化を掲げる「ネット・ゼロ・エネルギー・ハウス(ZEH)」の
本格的普及を目指す住宅業界初のゼロエネルギー住宅商品
「グリーンファースト ゼロ」
平成26年度省エネ大賞 審査委員会特別賞を受賞**

積水ハウス株式会社(本社:大阪市北区、社長:阿部俊則)は、省エネと創エネで「住まい心地向上」と「エネルギー収支ゼロ」を目指し、2020年の快適な暮らしを先取りしたゼロエネルギー住宅商品「グリーンファースト ゼロ」で、「平成26年度省エネ大賞 審査委員会特別賞」(主催:一般財団法人 省エネルギーセンター、後援:経済産業省)を受賞しました。今般の受賞についての審査委員コメントは以下の通りです。

【審査委員コメント】

本製品は、ネット・ゼロ・エネルギー・ハウス(ZEH)の本格的な普及を目指した住宅である。ZEHの考え方としては、高い断熱性能と高効率設備によりできる限り省エネ化した上で、太陽電池を大容量で搭載することでエネルギー収支ゼロを目指すものである。政府はエネルギー基本計画で2020年にZEH標準化を目指すとし、2012年からZEH補助制度を開始している。同社では、同補助制度で示されたゼロエネルギー計算を簡易的に行えるツールを開発し、確実にZEHとなることを確認している。また、高い快適性や光熱費の大幅削減、便利な情報提供までを行うオリジナルHEMSの標準装備等、省エネ化によるコストアップに見合う付加価値を創出する様々な工夫を行っており、普及型ZEHのプロトタイプを示した。



快適な生活をしながら、省エネと創エネで生活時のエネルギー収支ゼロを実現する「グリーンファースト ゼロ」

政府は徹底した省エネルギー社会を実現する取り組みの一環として、住宅のゼロエネルギー化を推進しています。2014年に発表した「エネルギー基本計画」では、一次エネルギー消費量が正味(ネット)で概ねゼロとなる「ネット・ゼロ・エネルギー・ハウス(ZEH)」を2020年までに標準的な新築住宅とすることなどを掲げています。

2013年4月に発売した「グリーンファースト ゼロ」は、「アルゴンガス封入複層ガラス」「高断熱サッシ」を採用するなど、東北北部レベルにまで高めた「ハイグレード断熱仕様」と「高効率エアコン」「LED照明」などの省エネ設備を採用しています。さらに日射・通風配慮設計などのパッシブ技術を取り入れることで、快適に暮らしながら、エネルギー消費量を大幅に削減します。そして太陽電池や燃料電池による創エネで、「住まい心地向上」と「エネルギー収支ゼロ」を目指す、2020年の暮らしを先取りするゼロエネルギー住宅です。高断熱化により大開口で自然と心地よくつながる「スローリビング」で、一年中ゆったり快適に過ごせる空間も提案します。さらに災害時も安心な暮らしが継続できる蓄電池を加えたタイプもラインナップしております。また、家庭内のエネルギーの「見える化」に加え、太陽電池・燃料電池の発電量や蓄電池運転状況などの「見守り」機能を備えたHEMSを標準搭載し、オンラインで積水ハウスが運転状況をチェックして診断するため、安心です。

当社は、新築戸建住宅における「グリーンファースト ゼロ」の割合を2014年度は60%、2015年度は65%、2016年度には70%とすることを目指して普及を図り、「SLOW & SMART」な暮らしと、より安心で環境負荷の少ない社会づくりに寄与してまいります。